

私は、この研修で中国に行くことで私が今まで中国に持っていたイメージを変えることが出来たのが一番の成果だと思いました。

まず、1日目に中国の空港に到着して周りで中国語が飛び交っている状況になった時には少し不安がありました。しかし、高い建物も多く、道路も広くてとても発展している街並みにこれからの研修がとても楽しみになりました。そして、人民大学について大学が一つの街のような大きさととてもびっくりしました。

中国での研修では、もう一つ不安に思っていることがありました。それは、食事です。本場の中華料理は初めてだったので楽しみに思いつつ不安もありました。しかし、この研修で食べた料理はどれもおいしくて、鯉や羊、鶏の足など日本でなかなか食べることないものや日本にない味付けを食べる経験が出来たのはとてもいい経験になりました。私はこの研修に「何事も経験だ」と自分でテーマを決めて参加しました。出てきた料理は全部食べてみると決めていました。そして、いろいろな味を食べることが出来てうれしかったです。しかし、屋台で見たサソリやヒトデ、タツノオトシゴを揚げたものは写真を撮るだけで食べる勇気が出なかったのは悔しかったです。

そして、この研修最大の目的である人民大学の学生との学生討論会や中国の農村調査、学生交流ではとてもいい経験をすることが出来ました。学生討論会では人民大学の学生の発表から中国の現状や行っている政策、対策について学ぶことが出来たのはもちろんですが、パワーポイントの作り方、発表中の堂々としている姿から学ぶことも多くありました。自分たちの発表では、緊張しましたが通訳付きで人前で発表することもないのでいい経験になりました。そして、自分の発表のいけないところを直視することが出来ました。中国の農村調査では農村の現状を知ることが出来ました。その中でも私が最も印象に残ったのは、ガイドをしてくださった通訳の方が説明してくださったときの言葉です。調査に行った農村を上から見ると屋根の色が違う部分があります。それは、戦争で日本兵が破壊したものを直した場所では屋根の色が違います。現地の人の中には未だに良く思っていない人もいて親切には接してくれないかもしれない、自分たちでよく考えて行動してくださいという言葉がとても心に刺さりました。そして、人民大学の学生との交流では人民大学の学生の英語の能力の高さにびっくりしました。私も、頑張らないといけないという気持ちをさらに持つことが出来ていい経験になりました。最初は間違えることが怖くて話しかけられませんでした。このまま話することが出来ないのは嫌だと思い積極的に関わっていくことが出来ました。

とてもいい経験することが出来たので参加することが出来て良かったと思います。

